

「平和の神が共におられる」

～パウロが語りたかった喜びとは～

「イエス様がともにいることをいつも喜べ！もう一度言おう。喜べ！あなたがたが優しく、思いやりにあふれていることが誰からも認められるように。イエス様の再臨は目前だ。何事も心配するな。心配を祈りに変えるんだ。すでに持っているものに感謝したうえで神に願うのだ！そうすれば、神が安心と自信を注ぎ、精神的に安定させてくれる。それは、人の考え方では実現不可能なレベルの自信と安心だ。」ピリピ人への手紙4章4-7節〔アライブ訳〕

先週の映画「パウロ」は素晴らしかった。パウロ自身は、暴君ネロ皇帝在位の中、苦しい牢獄の中で全く身動きが取れない。しかし、そんな中活躍したのは医者ルカだった。彼もこのピリピ教会のメンバーだった。死の床にいたローマの司令官の娘を癒したのもそのルカだった。パウロはひたすらルカのため、迫害下のクリスチャンたちのために牢獄の中で祈り続けていた。そして、奇跡は起こった。そのローマの司令官もその家族もパウロの語る福音に心開かれていった。全く身動きもできず、完全に自由を失った環境の中でも、神のことは決してつながられてはいなかったことが証明された。

私たちの時代にも同じように、生きて働かれる主は私たちと共におられて、力を表わしてくださる。私たち自身を見ることをやめよう。どんなに一生懸命に人間たちを見ていたからといって、そこには解決はありません。永遠に生きておられる最も偉大なお方に目を注ぎましょう！大迫害の中にあつた彼らを救ったのは、永遠の救いに導いてくださる偉大な神様への賛美でした。詩篇を歌い続けました。詩篇は当時の讃美歌でした。「主はわたしの牧者。わたしには乏しいことはない。」欠けだらけの真中で、そのように賛美しました。失っていくものばかりだったのに、そのように感謝しました。何という豊かな信仰でしょうか。光は闇の中に輝きます。希望の力は、失望と絶望のど真ん中で最も明るく輝きます。あなたには試練がありますか？あなたは病の真中におられますか？負いきれないほどの重荷を背負っていますか？そこに主の御傷のある御腕が力強く覆っておられます。

今ジャパンラグビーが熱い！サモアにも勝った。あとはスコットランド。日本がここまで来るとは世界も思っていませんでしたが、厳しいトレーニングを重ねてきたメンバーたちはいつも自信があった。これまでのトレーニングが彼らに「勝てる！」という自信を与えた。人生もしかり、試練が否応なしに降りかかる。それは、私たちにとってのトレーニング。やがて豊かな神の平安をいただくための自信となってくる。だからこそ、私たちは喜ぶことができる。勝利の栄冠が待っている。主に会おう時に私たちは平安に満たされる。そのことを思う時に、奮い立たせられるような喜びが私たちを満たす！「主を喜ぶことはあなたがたの力です！」これが聖書の真理。